

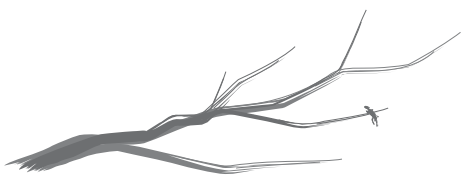


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三十号〜

啓蟄 けいちつ

三月五日



モズの草潜 くさぐさ

お雛さまを片付けると、すぐに二十四節気の啓蟄がめぐってきます。「啓」は「ひらく」で、「蟄」は巣ごもりを意味しますが、冬眠していた虫たちが地上に姿を現し始めるという頃。「啓蟄」かと思うと、誰しもつい地面を見つめたくなってしまうものですが、ふと庭に目をやり、思い出したことがあります。

年末の大掃除のとき、庭のキンカンの木の枝で見つけた、「モズの速贄」はやにえ。三センチほどのトカゲが枝に突き刺さっていました。

モズは日本に一年中すんでいます。秋になると入里近くまでおりてきて、雌雄それぞれが縄張りを宣言するキーキーという鋭い鳴き声の「モズの高鳴き」が知られています。そして小さい体にもかかわらず、夕カのようなかぎ型のくちばしをもっていて、カエルや昆虫、小さな鳥までも捕らえ、木のとがった枝や有刺鉄線などに突き刺しておくのです。エサの少ない冬に備えての習性といえますが、そのほとんどは忘れられてしまい、春になるとほかの鳥のエサになってしまうため、モズの捧げる初物の供え物のようだと、「速贄」といわれるようになりました。

我が家の庭の「速贄」も折々に見ていたのですが、二月末になくなっていました。モズは春になると里を離れ、山に移ります。昔の人々はそれを草の中に潜り込んだとみて、「モズの草潜」くさぐさと呼びました。庭にはモズの声は聞こえず、ヒヨドリでしようか、軽妙な鳴き声が響いています。「速贄」のなくなった枝はすっきりとして、柔らかな日差し、春の光が降り注いでいました。

文 千種清美